

宿屋の亭主 死ぬのを……？（自分でからだをさわってみたり、そこら中みまわしたりする。ふとそこどころがつている魔法の棒に眼をふれてぞっとしたように身をすくめる）

ブウツ おじさん、ぼくはこれさえ返してもらえば、これでもういいんですよ。（亭主に魔法のティブルかけをみせる）

宿屋の亭主 ああ、それ……（思わず手を出す）

ブウツ （出したその手の上へ、すりかえられたほうのティブルかけをほうる）返します、それは。——あなたんだから……

宿屋の亭主 ……（グニヤリとなる）

ブウツ （宿屋のかみさんに）おばさん、ぼくもつかえます。——きつと、おかアさん、お腹をすかして待っていると思いますから。——さようなら。……（出て行く）

（幕）

（大14・10～大15・1）